

スペイン語の質問

上田博人

目次

| | |
|-------------------------|----|
| スペイン語の質問 | 0 |
| 1 文字と発音 | 5 |
| 1.1 アルファベット | 5 |
| h | 5 |
| 1.2 母音 | 5 |
| 1.3 子音 | 5 |
| 単語の途中や終わりの r が巻き舌 | 5 |
| 1.4 音節とアクセント | 5 |
| 二重母音とアクセント | 5 |
| アクセント記号をつけないと? | 5 |
| Washinton のアクセント | 6 |
| 閉母音が続くときのアクセント | 6 |
| 大文字のアクセント | 6 |
| 1.5 その他 | 6 |
| 筆記体 | 6 |
| ¿...? と ¡...! | 7 |
| 疑問文のイントネーション | 7 |
| カナ表記 | 8 |
| 2 名詞 | 9 |
| 2.1 性 | 9 |
| 男性名詞と女性名詞 | 9 |
| 新しい名詞の性 | 9 |
| 男女共通名詞 | 9 |
| ジェンダー | 10 |
| 雌雄どちらかわからない場合 | 10 |
| 2.2 数 | 11 |
| 定冠詞 + 単数 | 11 |

| | | |
|-----|--|----|
| | toda la ciudad と todas las ciudades の違い..... | 11 |
| | 「1つずつ」という意味の単数..... | 11 |
| 3 | 動詞..... | 12 |
| 3.1 | SER と ESTAR..... | 12 |
| | estar de + 名詞..... | 12 |
| 3.2 | 直説法現在..... | 12 |
| | zc の動詞と g の動詞..... | 12 |
| | 1 人称単数形が不規則..... | 12 |
| | IR..... | 13 |
| | saber と conocer..... | 13 |
| | ar 動詞, er 動詞, ir 動詞..... | 13 |
| 3.3 | 直説法線過去、点過去..... | 16 |
| | ar 動詞の 1 人称複数..... | 16 |
| | 線過去と点過去の区別..... | 16 |
| | ser と ir の点過去が同じ..... | 16 |
| | fui の強勢..... | 16 |
| | sentir のタイプと perder のタイプ..... | 17 |
| | 点過去のアクセント..... | 17 |
| 3.4 | 直説法未来、過去未来..... | 17 |
| | 未来のことならば未来形?..... | 17 |
| | 現在から見て未来のこと..... | 17 |
| | 「丁寧」の意味..... | 18 |
| | 過去のことの推量、または婉曲用法..... | 18 |
| 3.5 | 接続法現在、過去..... | 18 |
| | ¿querer = want?..... | 18 |
| | ¿No crees que ~ ?..... | 19 |
| | sentar と sentir の活用形..... | 19 |
| | 接続法の se 形と ra 形..... | 20 |
| 3.6 | 命令形..... | 20 |
| | 命令形の意味..... | 20 |
| | 1 人称複数や 3 人称の命令形..... | 20 |
| 3.7 | 不定詞、現在分詞、過去分詞..... | 21 |
| | 疑問詞 + 不定詞..... | 21 |
| | 感覚・使役動詞..... | 21 |
| | dejar + 不定詞、過去分詞、現在分詞..... | 21 |
| 3.7 | 命令形..... | 22 |

| | |
|---|----|
| 3. 8 複合形..... | 22 |
| 完了形 | 22 |
| 現在完了と過去形..... | 22 |
| 現在完了はどのような過去 | 22 |
| 現在完了と「過去」を示す副詞 | 23 |
| 過去完了 | 23 |
| 未来完了と「時」を示す副詞（句） | 23 |
| 進行形 | 23 |
| estuve trabajando | 23 |
| 直後形 | 24 |
| ir a + 不定詞と未来 | 24 |
| 受動形 | 25 |
| その他 | 25 |
| 英語のような助動詞 | 25 |
| deber と tener que | 25 |
| 4 形容詞..... | 26 |
| -c で終わる名詞か形容詞 | 26 |
| 形容詞の前置と後置 | 26 |
| gran と grande の違いは? | 26 |
| 2つの形容詞と y | 26 |
| 複数の形容詞の順番 | 27 |
| 主語を修飾する形容詞..... | 27 |
| 5 副詞..... | 28 |
| demasiado | 28 |
| junto, juntos | 28 |
| 「時」と「場所」を示す副詞（句） | 28 |
| 時を示す副詞句 | 29 |
| 6 機能語..... | 30 |
| 6. 1 冠詞と代名詞..... | 30 |
| 総称を示す定冠詞..... | 30 |
| 定冠詞と所有形容詞 | 30 |
| tomar un café | 31 |
| 無冠詞 | 31 |
| tú と usted | 31 |
| 代名詞の重複：間接目的語 | 31 |
| 代名詞の重複：直接目的語 | 32 |

| | |
|--|----|
| 冠詞と目的語の代名詞の形が似ている | 32 |
| conmigo, contigo | 32 |
| 代名詞の連続 | 32 |
| 6. 2 疑問詞と関係詞 | 33 |
| que と quien | 33 |
| 関係副詞の cuando | 33 |
| 目的語の関係代名詞の省略 | 33 |
| donde と en que | 33 |
| 関係詞とアクセント記号 | 34 |
| la última vez que asistí | 34 |
| 同格の関係節 | 34 |
| 6. 3 所有語と指示語 | 34 |
| tú と tu | 34 |
| 所有語の意味 | 35 |
| 指示詞中性の複数 | 35 |
| 6. 4 前置詞 | 35 |
| a: contestar (a) una carta | 35 |
| de 「説明」 | 35 |
| de: vacaciones de verano | 36 |
| de: terminar de estudiar | 36 |
| en: hablar en español と hablar español | 36 |
| en と a | 37 |
| de: un estudiante del español | 37 |
| por と para | 37 |
| sobre | 37 |
| 動詞＋前置詞 | 38 |
| 6. 5 接続詞 | 40 |
| 6. 6 数詞 | 40 |
| 3桁の数字 | 40 |
| 年号 | 40 |
| el año 1492 | 40 |
| 6. 7 不定語と否定語 | 40 |
| nunca と jamás | 40 |
| 二重否定 | 41 |
| 7 文と節 | 42 |
| 無主語文 | 42 |

| | | |
|---|--------------------------|----|
| | GUSTAR のタイプ | 42 |
| | GUSTAR は自動詞 | 42 |
| | A mí... me の構文 | 43 |
| | 動詞＋主語という語順..... | 43 |
| | 疑問文の主語の位置 | 43 |
| | 自由な語順? | 44 |
| | 疑問詞疑問文の語順 | 44 |
| | GUSTAR の主語は後置 | 44 |
| | 関係節の中の主語の位置 | 45 |
| | 「時」の副詞句の強調構文 | 46 |
| 8 | 語と語形成..... | 47 |
| | 国名の形容詞 | 47 |
| | dar recuerdos para | 47 |
| | 縮小辞 | 47 |

1 文字と発音

1. 1 アルファベット

h

Hは普通無声音なのだろうと思っていたのだが、HemingwayのHeは「へ」と発音されているような気がしました。

外国人の名前や外国の地名など、また外来語などでhを読むことがあります。

1. 2 母音

1. 3 子音

単語の途中や終わりのrが巻き舌

* 単語の途中や終わりでrが1つだけでいるところでも巻き舌を使っているように聞こえるのですが…？

たとえば, tardeのような語で, 音節が終わる位置のrは巻き舌になることがあります。また, cantarのように語末でも巻き舌になることがあります。

1. 4 音節とアクセント

二重母音とアクセント

二重母音のある音節にアクセントがあるとき, どちらの母音が強いのですか。

開母音のほうです。たとえばaiならばa, ueならばeです。閉母音が強いときはアクセント記号をつけなければならないからです。

アクセント記号をつけないと？

スペイン人は手紙を書くとき, アクセント記号を忘れてしまったら通じなくなってしまうのですか？

アクセント記号を書かなくても文脈でわかるときは通じます。しかし, アクセント記号

は単語の一部なので、書かないと間違えた綴りを使うことになるので注意しています。アクセントが書けない環境でメールが送られてくるときは、そのことをちゃんと謝っています。

Washinton のアクセント

Washinton は wa-shing-ton という原則に従うと、アクセントは i ではありませんか。でもパソコンの音声では a にアクセントがあるように聞こえるのですが、どちらでしょうか。

確かにアクセントは最初の音節の a にあります。この地名はスペイン語ではないので、アクセントの規則よりも、元の言語（英語）のアクセントの位置を尊重します。なお w は外来語に使われます。

閉母音が続くときのアクセント

fui のように閉母音が続くときはどちらが強勢があるのですか？

fui の場合は "i" に強勢アクセントがあります。一般に、ui や iu のように閉母音が連続するときは、後の母音が強くなります。しかし muy のように語末が y になっている場合は u にアクセントがあります。そのために、fui は ×fuy と書かれないのでしょうか。fui は他の動詞のアクセントパターン comí や viví に従います。ただし、単音節なのでアクセント記号はつけません。

大文字のアクセント

「芝生」は césped でアクセント記号がつくのに、看板には CESPED とアクセントがついていません。これはそういう決まりなんですか？

しばしば大文字ではアクセント記号が省かれます。しかし、正式にはつけることになっていますので、書くときには注意しましょう。

1. 5 その他

筆記体

スペイン語の筆記体は英語と同じですか？

ほとんど同じですが、次が少し違います。I の大文字が【図 1】のようになり、T のように見えます。そして、T の大文字は【図 2】となります。こ

のような文字はたとえば街角の看板などで見ることができますが、書き手によってさまざまなのでわかりにくいこともあります。

【図 1】

【図 2】

¿...?と¡....!

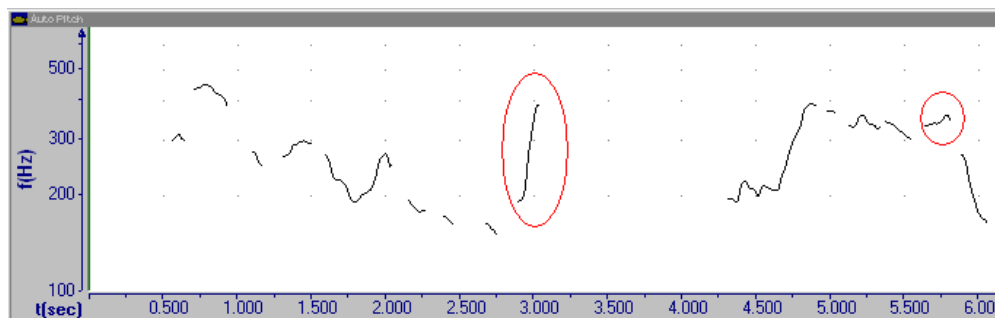
*逆さまの¿や¡をスペイン語で何というのですか？

¿...? は signos de interrogación、¡....! は signos de exclamación と言います。¿ や ¡だけを取り出して言うときの表現はとくに決まっていませんが、¿ は signo de apertura de interrogación、¡は signo de apertura de exclamación がよく使われます。apertura の代わりに principio も使われます。signo invertido de interrogación [exclamación]も見たことがあります。apertura の代わりに cierre を使うと ? や ! を指します。

疑問文のイントネーション

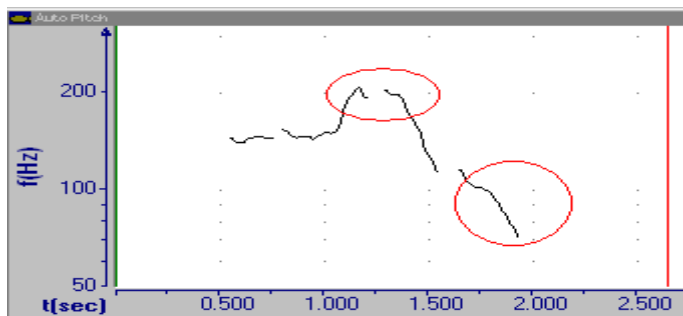
以下のような友子のセリフがあります。(1)¿Tú crees que quince minutos es poco? (2) ¿Llegaremos a tiempo al teatro? 一連の発話のなかに出てくる2つの疑問文ですが、CD-ROM の録音によると、(1)は語尾を上げ、(2)では語尾が下がっています。疑問文の語尾をあげるか下げるかによってどのようなニュアンスの違いが表現されるのでしょうか。

次は(1)と(2)を音声分析をしたピッチ曲線 (Hz で示される周波数曲線)です。左の赤い楕円で囲んだ部分が(1)poco?にあたります。右の楕円の部分は teatro の TEA の部分です。



これと(3) Te lo contaré por el camino.を比較してください。一般にスペインのスペイン語では次の(3)のように最終強勢音節は下がります。次のピッチ

曲線の左の楕円が *contaré* の *RE* の部分で、右の楕円が *camino* です。



そこで、(2)は疑問文にもかかわらず確かにピッチ曲線は下降を描いていますが、最終強勢音節が高いピッチであることが(3)と異なります。このような曲線を描く疑問文の意味は「お芝居の時間に間に合いますか？」という新たな情報を求める質問ではなく、「お芝居の時間に間に合うんでしょう？」という確認の意味になるようです。この文脈では「大丈夫？」という感じです。

カナ表記

スペイン語の人名や地名をカナ表記する方法は一般に決まっていますか？

とくに決まりはありませんが、私は次のルールを提案しています。

(1) スペイン語のアクセントの位置が日本語のカナ表記において後ろから2つめの文字（「タ」などのカナ1文字または「チャ」などのカナ+小文字）に対応するとき、音引きを付す。

(a) スペイン語が母音で終わる場合。

例：Arica アリーカ、Castilla カスティーリャ、Arturo アルトゥーロ

(b) スペイン語が d または r で終わる場合。

例：Madrid マドリード、conquistador コンキスタドール

(2) ただし、次の場合には音引き「ー」を付さない。

(a) カナ表記で2文字以下になる場合。

例：Lima リマ、José ホセ、tú トゥ

(b) スペイン語のアクセントが母音の連続にある場合。

例：sierra シエラ、zapateo サパテオ、Andalucía アンダルシア

(3) ただし、地名、人名、作品名、音楽ジャンル名などは慣用に従う。

例：Ecuador エクアドル、Perú ペルー、Ortega y Gasset オルテガ・イ・ガセット、bolero ボレロ

2 名詞

2. 1 性

男性名詞と女性名詞

男性名詞と女性名詞をどう使い分けるのですか？

名詞はそれぞれ男性名詞と女性名詞に分類されています。使い分けるというよりも、冠詞や形容詞との性数の一致に注意しましょう。「人」や「動物」を示す名詞では、男性（雄）を指すときは男性形、女性（雌）を指すときは女性形を使います。たとえば, español, española.

新しい名詞の性

新しい名詞が生まれたとき、どのようにして性を決定するのですか？

他の単語から接尾辞をつけて新しい名詞が生まれると、接尾辞によって性が決まります。たとえば、luna「月」から alunizar「月に着陸する」という動詞が生まれ、さらにその名詞形 alunizaje「月着陸」が生まれました。この名詞はajeという接尾辞があり、この接尾辞をもつ名詞はすべて男性名詞です。また、alunizamiento という言葉も見たことがありますが、これも miento という男性の接尾辞がついています。

また、外来語などから新しい名詞が導入されるときは、ほとんどが男性名詞です。たとえば、córner「(サッカーの)コーナーキック」、kimono「(日本の)着物」など。また、意味的な連想で女性になることもあります。la hinomaru, la kokeshi など日本を紹介した観光ガイドブックなどで見られますが、これらは、それぞれ bandera「旗」、muñeca「人形」が女性名詞だからです。もちろん ama「海女」、geisha「芸者」などの女性を示す名詞も女性名詞として扱われます。

男女共通名詞

estudiante は男性名詞でも女性名詞でもあるから、los でも las でもいいのですか。

estudiante のように男性・女性が同じ形の名詞を「男女同形名詞」と呼びます。とくに女性ばかりを指して言うときは las estudiantes となりますが、一般に男女を交えて言うときは los estudiantes が普通です。

ジェンダー

ジェンダー、男女平等の考えからアメリカでは男女の区別をあまりせず、一般の人として he を使うのではなく、he or she, または they を使ったりする動きがあり、今やこちらの方が主流になってきています。スペイン語では男性形、女性形というように様々な品詞が男女で区別されています。スペイン語にも男女平等の考えによる文法の変化というものはあるのでしょうか？

以前は男性形で代表させていましたが、最近では男女の区別をしない、というよりもどちらも述べるようにすることがあります。次は私たちがスペイン語文法の実態調査をするときのフェースシートの一部です。

DATOS SOBRE EL / LA ENCUESTADO/A

Ciudad: _____

Su nombre y apellido : _____

Sexo: 1. () Hombre; 2. () Mujer

Edad:

- 1 () de 10 a 19 años. 5 () de 50 a 59 años.
 2 () de 20 a 29 años. 6 () de 60 a 69 años.
 3 () de 30 a 39 años. 7 () de 70 a 79 años.
 4 () de 40 a 49 años. 8 () de 80 a 89 años.

このように単に EL ENCUESTADO (回答者)とするのではなく、ちゃんと女性形も載せています。男女の区別をしなければならないのは文法上仕方がないことですが、言葉を使うときは男性中心にならないように心がけたいと思います。

雌雄どちらかわからない場合

男性・女性名詞があるおかげで un perro, una perra ですぐに雌雄がわかりますが、もしその犬が雌雄どちらかわからない場合はどうするのですか？

perro という形が一般的なのでこちらを使います。動物の雌雄は、たとえば飼い主などのようにそれに深い関心がある人は区別しますが、とくに雌雄を問題にしない人は、一般の形を使います。perra はとくに雌であることを示したいときに使う形です。

2. 2 数

定冠詞＋単数

La huerta valenciana produce gran cantidad de naranjas. ここで la huerta となっているが, las huertas にしなくてよいのですか？

確かに現実には huerta は複数あるはずですが。もちろんここで las huertas valencianas producen...ということも可能です。そのときは、実際に複数の huerta をイメージしています。一方, la huerta とすると総称としての huerta がイメージされます。

toda la ciudad と todas las ciudades の違い

toda la ciudad と todas las ciudades の違いは何ですか？

ciudad の複数形は ciudades です。toda la ciudad は「1つの都市全体」を意味し, todas las ciudades は「(複数の)すべての都市で」を意味します。

「1つずつ」という意味の単数

¿En todas las las ciudades hay una Plaza Mayor?文章から考えると Plazas Mayores にしたほうが良いのではないのでしょうか。

→たしかに, この文では en todas las ciudades となっていますから Plaza Mayor も全部集めると複数のはずです。しかし, それでも, すべての町にそれぞれ1つずつの Plaza Mayor があるとすれば単数扱いになります。それぞれに配分されたものは単数になるのです。もしこれを複数にすると, それぞれの町に複数の Plaza Mayor があることになります。

3 動詞

3. 1 SER と ESTAR

estar de + 名詞

本に *Marta está de secretaria mía.* という文章があるんですが、この文章は *Marta está secretaria mía.* とはならないのでしょうか。

これは「estar de + 名詞」の構文です。意味は「(今) ... をしている(ところです)」となります。たとえば、*Estamos de vacaciones.* 「私たちは休暇中です」、*Mi padre está de viaje.* 「父は旅行中です」。estar de secretaria ならば「秘書をしている」という意味です。もし「マルタは私の秘書です」ならば、ser 動詞を使います。*Marta es mi secretaria.*

3. 2 直説法現在

zc の動詞と g の動詞

zc の動詞と g の動詞はどうやって見分けたら良いのですか？これも単語ごとに覚えるしかありませんか？

zc の動詞は母音 + cer, cir という動詞です。ただし、hacer は除きます。hacer などの g の動詞はこれらの動詞に特有ですが、これに接頭辞がついた動詞も同じように変化します。たとえば、componer は poner と同じように変化します。

1 人称単数形が不規則

現在形の不規則活用は、どうして 1 人称単数形ばかり不規則な活用なんですか。

「g」の動詞は、ER 動詞と IR 動詞だけで、AR 動詞はありません。ER, IR 動詞の活用語尾を見ると、1 人称単数形だけが後母音(o)となり、残りは全部、前母音(e, i)になります。このように後に続く母音の性質が条件となつて、音韻が一定の変化をしたのです。たとえば、hago は -c- が 2 つの母音に囲まれていますね。そのために有声化していますが、他の位置では haces, hace, ... のように次の母音が前母音(e)なので、「c」の音が口の前の方で発

音する英語の th のように音に変化しました。hago は次が後母音の「o」なので、そのような変化はありませんでした。decir-digo についても同じことが言えます。conocer-conozco は元の形が conozcer のような発音でした。これ前母音(e)の前では容易に conocer になりますが、[o]の場合は例外で「z」が残り、conozco という形が保たれています。他の動詞については、go 型の動詞と同じように変化する類推作用が働いたようです。

IR

なぜ ir の現在の活用は不定詞の形とまったく違うのですか？

ir という動詞に voy, vas, va という活用形があるのは、本来 ir とは異なる(ラテン語の)動詞が合流したためです。ラテン語の vadere という動詞ですが、「川を渡る」という意味です。中世のスペイン語ではたとえば現代スペイン語の vamos の形ではなく imos という形も使われていました。

saber と conocer

saber と conocer の意味の違いは？

saber は基本的に知識として知っていることを示します。一方、conocer は経験によって知っていることを示します。次の例を参考にしてください。
¿<Conoce> usted al señor Pérez? -- <Sé> quién es, pero sólo le <conozco> de vista. 「あなたはペレスさんをご存知ですか。一どなたかはわかりますが、ただお顔を存じているというだけでございます。」

ar 動詞, er 動詞, ir 動詞

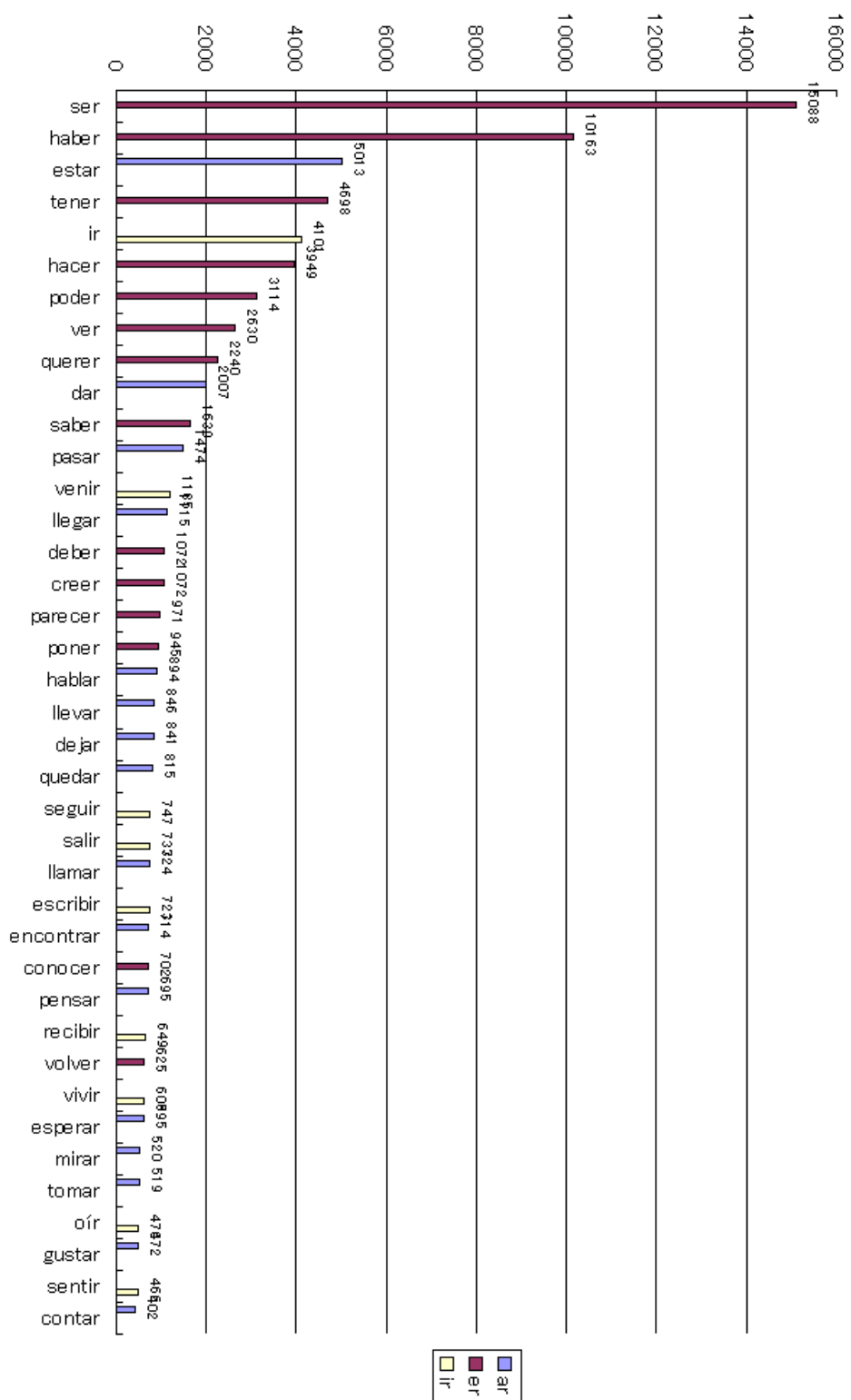
*これまでに読んだ文章に出てくる動詞のほとんどが ar 動詞で、er 動詞、ir 動詞はあまりないという印象でしたが、実際のスペイン語もそうなのですか。

→その通りです。中型の学習辞書(研究社の「新スペイン語辞典」)に載せられた動詞は 4632 語ありますが、そのうち ar 動詞は約 4000 語(85%), er 動詞は 340 語(7%), ir 動詞は 380 語(8%)です。しかし、使われる頻度数で上位 5000 語で調べると(*), ar 動詞(750 語:69%)に対して er 動詞(165 語:15%)と ir 動詞(166 語:15%)の割合が増えます。(*) 小説, 新聞, 科学技術文など 10 分野のサンプルをそれぞれ 10 万語, 計 100 万語で調べました。

| | | | |
|----------|---|----------|---|
| 辞書 38000 | % | 高頻度 5024 | % |
| 語 | | 語 | |

| | | | | |
|----|------|-------|------|-------|
| ar | 4009 | 84.7 | 752 | 69.4 |
| er | 340 | 7.2 | 165 | 15.2 |
| ir | 383 | 8.1 | 166 | 15.3 |
| 計 | 4732 | 100.0 | 1083 | 100.0 |

次のページは使われる頻度数のトップ 40 の動詞のそれぞれの頻度数を示します。このグラフからわかるように、確かに実際のスペイン語で ar 動詞の数が多いのですが、重要な高頻度語で er 動詞と ir 動詞がたくさんあるので、やはり er 動詞と ir 動詞の活用形もしっかり覚えなければなりません。



3. 3 直説法線過去、点過去

ar 動詞の 1 人称複数

ar 動詞は 1 人称複数が現在と点過去で一緒ですが、ちゃんと判断がつくものなのでしょうか？

多くの場合、状況、文脈、常識で判断がつきます。それでも誤解が生じる場合もあります。ir 動詞も 1 人称複数が現在と点過去で一緒です。

線過去と点過去の区別

線過去と点過去が区別される境界線がわかりません。

点過去は「過去に終結してしまったこと」を表します。それが長い期間でもその全体が終わってしまっていることならば、点過去で表します。一方、線過去は、終結したということを意識しないで、過去にそういうことがあった、行われていた、ということを示します。線過去は「…していた」と訳されることが多いので、過去進行形のように見えますが、進行そのものは意識していません。

ser と ir の点過去が同じ

ser と ir の点過去が同じで困ることはないのですか。

実際には前後の文脈ではっきりと区別されます。ser 動詞ならば「主語 + fue + 補語」(彼は…だった:主語 = 補語の関係が成り立つ)となりますし、ir 動詞ならば、たとえば「主語 + fue + a + 場所」(彼は…へ行った)というように、前置詞や動詞の後の要素の意味でわかります。次の例を比べてみてください。Él fue mi profesor.「彼は私の先生だった(ser)」／Él fue a mi casa.「彼は私の家に行った(ir)」

fui の強勢

fui のように閉母音が続くときはどちらが強勢があるのですか？

fui の場合は"i"に強勢アクセントがあります。一般に、ui や iu のように閉母音が連続するときは、後の母音が強くなります。しかし muy のように語末が y になっている場合は u にアクセントがあります。そのために、fui は ×fuy と書かれないのでしょうか。fui は他の動詞のアクセントパターン comí や viví に従います。ただし、単音節なのでアクセント記号はつけません。

sentir のタイプと perder のタイプ

語根母音変化動詞の sentir のタイプと perder のタイプではどこが違うのですか？どのようにして別のタイプとして区分されるのですか？

sentí と perdí だけを見ていると区別できませんが、不定詞でわかります。sentir 型は ir 動詞ですが、perder は er 動詞で pensar 型です。
sentir: 現在 : siento, sientes, siente, sentimos, ... / 点過去 : sentí, sentiste, sentí, ... // perder: 現在 : pierdo, pierdes, pierde, perdemos, ... / 点過去 : perdí, perdiste, perdió, ..., とくに点過去 3 人称の違いに注意してください。

点過去のアクセント

点過去の不規則の説明で、アクセントの位置のことがよくわかりません。

点過去ではアクセントは基本的に語尾にあります。強変化では例外的に 1 人称単数と 3 人称単数で語根にアクセントがあります。

3. 4 直説法未来、過去未来

未来のことならば未来形？

Mi avión sale dentro de dos horas. 「私の飛行機はあと 2 時間で離陸します」
では、未来のことなので **sale** でなくて **saldrá** にすべきでは？

この文脈では確かに「未来」の時を指していますが、時が未来であっても「推量」や「意志」の意味がなければ現在形で表現されます。「未来形」という名称では、未来形が必ず「未来」を指す、また逆に「未来」を指すときは未来形を使う、と誤解されてしまうので、むしろ「推量形」と呼んだほうがよいと思います。しかしスペイン語文法では「未来形」と呼んでいるので用語上の混乱を避けるために「未来形」という用語を使っています。現在のことでも「推量」の意味が加われば未来になることにも注意しましょう。

現在から見て未来のこと

過去未来は「過去から見て未来のこと」を表すということですが、たとえば **El me dijo que me llamaría por teléfono.** の **llamar por teléfono** という行為がそれが現在から見て未来のことでもかまいませんか？

現在から見て未来のことでもかまいません。たとえば, **El me dijo que**

mañana me llamaría por teléfono.(彼は明日私に電話する,と言った)ということもできます.

「丁寧」の意味

過去未来形は「丁寧」の意味で訳してよいときがありますか？

「丁寧」は仮定文の帰結節とよく似ています。本質的には同じと思ってもよいくらいです。たとえば, Yo diría la verdad.は「私ならば本当のことを言うのですが」というのは確かに仮定の帰結節には違いありませんが, 直接的な言い方を避けて丁寧な言い方になります。

過去のことの推量、または婉曲用法

Llegaría tarde a la estación.などの文は「過去のことの推量」になりますか, それとも「婉曲用法」でしょうか。

文脈しだいだと思います。一般に, 過去未来は過去を示す文脈がないと, 一番多いのは婉曲用法なので, 「彼は駅に遅くついてしまうかもしれないね」という感じになります。たとえば上智大学出版会の「詳解スペイン語文法」(p.159)には *Saliendo tan tarde, Gregorio no llegaría a tiempo para tomar el avión.*という例文を「過去の事象に対する現在からの推量」の用法としてあげています。これは「あんなに遅く出発したので, グレゴリオは飛行機に乗り遅れたのだろう」という解釈でしょう。しかし, ここで *Saliendo...*を「条件」の意味で解釈すると現在のことを仮定した文としてもとれます。

「中級スペイン語文法」(白水社:山田監修) p.318では, 過去の行為・状態の推測の場合は, 過去を示す副詞(句)を伴ったり, 文脈から過去であることが分かる必要がある, ということです。たとえば *Entonces llegaría tarde a la estación.*この *entonces*が「それならば」ではなくて, 「その時」という意味で解釈すれば「遅く着いたのだろう」となります。

3. 5 接続法現在、過去

¿querer = want?

querer = *want* と覚えてきたので, *querer que* という表現を見たとき一瞬とまどった。*want that ...*という表現がないからだ。英語と対応させると覚えやすかったりするけど, 違うところもあるので注意したい。

確かに *querer* は *want* に対応することが多いのですが、*wish* のように使われることもあります。

¿No crees que ~ ?

No creo que ~ のように「~だとは思わない」という文では接続法を使うと習ったのですが、では疑問文で¿No crees que ~ ? 「君は~だと思わないか？」という文では接続法を使うのでしょうか？それとも直説法でよいのでしょうか？

¿No crees que...? の疑問文では直説法も接続法も可能です。直説法では質問した人が *que...* 以下の内容について確信があり、それについて相手が信じないということを問題にしています。たとえば(1) ¿No crees que este libro es interesante? 「君はこの本がおもしろいと思わないの？」というときは直説法になります。一方、¿No crees que este libro sea interesante? 「君はこの本がおもしろいなんて思わないでしょ？」というときは接続法です。(1) は聞き手がこの本を面白いと思っている感じが出ていますし、(2) では、聞き手はそのことに疑念を抱いていて、それを相手にも確認している感じです。

また、*creer* の疑問文では否定でなくても、肯定形でもやはり直説法と接続法がどちらも可能です。先の例を使うと、(1) ¿Crees que este libro es interesante? 「君はこの本がおもしろいと思う？」というときは直説法になり、一方、¿Crees que este libro sea interesante? 「君はこの本がおもしろいなんて思うの？」というときは接続法です。そこで、接続法の要点は *que* 以下の仮想した内容について一定の「評価・主張」（ここでは「信じるに値する、信じられる」）がなされているときだと考えられます。その評価の対象になっていることを、「…（だ）なんて」（思うの？、思わない）という日本語で表すことができます。一方、直説法は *que* 以下の内容を事実と見なしして確信している場合に使います。

sentar と sentir の活用形

sentar 「坐らせる」と *sentir* 「感じる」はどちらも 1 人称現在形は *siento* ですね。そうだとしたら、接続法では、それぞれ相手の動詞の直説法現在形になってしまって非常に複雑だな、と思うのですがどうなのでしょう？

たしかに *sentar* も *sentir* も直説法現在 1 人称単数は *siento* になります。一方、接続法現在では、それぞれ *siente* と *sienta* となり、これはそれぞれ

sentir と sentar の直説法現在(3人称単数)と同じ形になります。複雑ですが、多くの場合文脈で区別できるので混乱はありません。

接続法の se 形と ra 形

接続法の se 形と ra 形は、どちらかが使えない場合があると聞いたのですが、これはどういうことですか？また、接続法の se 形と ra 形はどのように使い分ければよいのですか？

ra 形は一般的な接続法過去の使い方の他に、直説法過去完了と同じ意味で使われたり、また非現実的条件文の帰結節で過去未来形の代わりに使われることもあります。たとえば次の例を見てください。Después de que los Reyes Catolicos le dieran el financiamiento Colón partió desde el puerto de Palo. 「カトリック両王が資金を提供すると、コロンブスはパロの港から出港した」／Si yo fuera rico, no trabajara como profesor. 「私が金持ちならば教師の仕事などしないのだが…」

3. 6 命令形

命令形の意味

命令形は命令するときに使うのですか？

命令するときだけでなく、一般に人に対してやってもらいたいことを示します。

1 人称複数や 3 人称の命令形

1 人称複数や 3 人称の命令形を使うのはどういう状況なんですか？

1 人称複数の命令形は「(私たちは) …しましょう」という勧誘の意味になります。3 人称は usted, ustedes に対する命令(依頼)の場合です。「あなたが…するように」(望む)という意味で接続法が使われます。usted, ustedes 以外ならば Que...を使います。たとえば Que cante él. 「彼が歌うように」

3. 7 不定詞、現在分詞、過去分詞

疑問詞＋不定詞

No sabemos como economizar en los gastos. 「私たちは経費をどのように節約すべきかわかりません。」という文で「…すべき」という意味で使う疑問詞＋不定詞についてなのですが、cómo に限らずどんな疑問詞を用いてもよいのでしょうか？

よいです。たとえば、No sé adónde ir. 「私はどこに行けばよいのかわからない」。

感覚・使役動詞

dejar は＋不定詞、＋現在分詞、両方の使い方の例文が教科書に載っていて、どちらも使えるというのは分かるのですが、hacer は＋不定詞だけなのでしょうか。また、どちらか一方の用法だけしか許されないといった動詞はあるのでしょうか。

hacer の「使役構文は＋不定詞」だけです。また、使役構文は他に mandar, ordenar, permitir などでも使われますが、これらも＋不定詞です。他に接続法の que 節をとることもあります。

dejar＋不定詞、過去分詞、現在分詞

使役動詞で後ろに不定詞がつく場合と過去分詞や現在分詞がつく場合で厳密な意味上の使い分けはあるのですか？

→使役動詞で現在分詞や過去分詞が使われるのは hacer ではなく、dejar の場合です。現在分詞のときは「…している」(進行)という状態をさせておく、という意味になり、過去分詞のときは「…されている」(受動・完了)という状態にさせておく、という意味になります。dejar は不定詞がつくこともありますが、このときは「…させておく」という「進行」の意味も「…されている」という「受動・完了」の意味もありません。hacer は不定詞だけで、「…させる」という意味です。なお、hacer も dejar も que＋接続法節になることもあります。

3. 7 命令形

3. 8 複合形

完了形

現在完了と過去形

現在完了と過去形の区別がつきません。たとえば、「私はスペインに1年間住んでいた（今は東京に住んでいる）」という文を考えると、この文は線過去で表現することが可能であり、また「現在から見た完了」にあたるので現在完了でも表現することもできると思うのですが、どちらが正しいのでしょうか？

現在完了では過去にあったことが現在の状態にかかわっていることを示し、時制としては現在になります。基本的に「…してある」という意味です。一方、過去形は「過去に…ということがあった」という意味で、時制は過去になります。

過去形のそれぞれの使い方は時制のとらえ方によって変わります。過去にそういうことがあった、という意味で使うならば線過去(vivía)、スペインで暮らしたことを今完了したということを伝えたいときは、現在完了になります(he vivido)。また、過去に終わってしまった事実として言いたいときは点過去も可能です。Viví en España durante un año. 日本語では同じような言い方になりますが、スペイン語では時制のとらえ方で異なる表現になります。

現在完了はどのような過去

現在完了はどのような過去を表すのですか？

→現在完了は過去の出来事が現在にどう関わっているのか、現在の時点でそれがどのような結果になっているのかを示します。このように現在完了は「現在と関係のある過去」というよりも、むしろ「過去の出来事が現在にどのように関わっているのか、現在の状態がどうなのか」を示し、時制としても「現在」を示します。たとえば、He comido.は、確かに「私は食事をした」とも訳せますが、それは過去において完結している、という意味ではなく、むしろ「私は食事を済ませてある」というような現在の状態を示します。線過去と点過去の区別については、それが過去の時点で完結してしまっていることならば点過去、完結を意識していないならば線過去が使われます。

現在完了と「過去」を示す副詞

英語では完了形を用いるときは過去を示す **yesterday** などは使えませんが、スペイン語ではどうなのですか？

スペイン語でもやはり、ayer「昨日」(=yesterday)などはっきりと過去を示す副詞は使えません。しかし、はっきりと過去を示す副詞があっても、それが現在の気持ちに直接強く関わることならば次のように現在完了で表現されることもあります。Mi perrito ha muerto hace tres meses.「私のワンちゃんが3ヶ月前に死んでしまった」

過去完了

過去完了では **haber** の線過去だけが使われるのですか？点過去は使われませんか？

線過去を用いる過去完了は、過去のある時期までに終わってしまったことを示します。あることが過去の一時期の直前に起こったことを示すときには、次のように、点過去を用いた過去完了形も使われることがあります。Cuando todos hubieron salido de casa, él comenzó a limpiar la casa.「皆が外出すると、彼は家の掃除を始めた」しかし、これは少し古いスペイン語の用法で、現代スペイン語ではこの場合でも線過去の過去完了形を使います。Cuando todos habían salido ...

未来完了と「時」を示す副詞（句）

Habré terminado de estudiar a las ocho de la tarde となっているが、なぜ完了形と時刻を同時に使えるのですか？英語では完了形の文章に明確な時刻を表す言葉は使ってはいけないので。

英語で明確な時刻を表す言葉が使えないのは現在完了です。未来完了ならば、He will have been abroad three years next October.「次の10月で彼は外国に3年いたことになる」のように言えます。スペイン語でも同じです。

進行形

estuve trabajando

estaba +現在分詞と **estuve +現在分詞**の違いは？

基本的に線過去と点過去の違いと同じです。つまり、estaba +現在分詞は過去にあったことが、終わってしまったものとは意識していないとき、とくに他の出来事が起きたことの背景になるときに使います。たとえば Yo

estaba comiendo「私は食事をしていた」ときに, sonó el teléfono「電話が鳴った」というような他の出来事があった場合に使います。出来事がなくても線過去の進行形にはそのような出来事の背景であることが感じ取れます。

一方, 点過去の進行形は過去のある時点で済んでしまった進行状態を示します。よく時間の副詞句で限定されていることがあります。たとえば, Yo estuve trabajando durante cinco horas.「私は5時間働いていた」。

直後形

ir a + 不定詞と未来

ir a + 不定詞も未来を示すと習いました。これと未来形の違いを教えてください。

たとえば, (1) Voy a terminar este trabajo. と (2) Terminaré este trabajo. を比べて見ましょう。(1)では, Voy a...という現在形が使われているので, 未来形(2)のような「推量」の意味がありません。そこで, (1)には決然とした意志が感じられます。また現在形なので「現在に近い時点で仕事を終える」ことを表明しています。一方, (2)は未来形なので, 「仕事を終える」こと, 「終えるであろう」ことを予測しながら「推量」の意味を込めて「意志」を表明しています。

文法を言葉で説明しようとするすると2つの違いがわかりにくいかも知れませんので, 具体的な例で考えてみましょう。たとえば, 上の2つの文を疑問文にするとどうでしょうか。(1) ¿Voy a terminar este trabajo? と (2) ¿Terminaré este trabajo? (1)には「私がこの仕事を終えるつもりだって? (そんな!, そんな無茶なこと言ってないよ!)」というニュアンスがあります。(2)は「私はこの仕事を(果たして)終えることになるのかな? (大丈夫かな?)」という不確かさ, 自信のなさを示しています。このように, (1)は「決然とした現在の意志」について疑問を呈し, (2)は「(私の)推量・意志」の内容について自問しています。このように, 両者は現在と未来の時制の基本的な意味(未来形=「推量」の意味)を見ると, その違いがわかります。

受動形

その他

英語のような助動詞

スペイン語には英語のような助動詞がないのですか？

querer, poder, ir aなどが助動詞の部類に入ります。これらの動詞には次に不定詞が続き、不定詞の目的語が助動詞の前に置くことができます。たとえば、Lo vamos a ver.「私たちはそれを見ましょう。」英語とは違って、助動詞にも強勢があり、一般の動詞と同じように活用形も揃っています。

deber と tener que

deber と tener que はどう違うのですか？

deber は道徳・心理的な義務を表します。Debes hacer las tareas.「君は宿題をしなければいけない」。一方 tener que は個人がする必要があることを示します。Tengo que hacer estas tareas.「ぼくはこの宿題をしなければいけない」どちらも日本語では「...でなければいけない」となってしまいますが、deber は道徳的な義務感、tener que は個人の必要性を示すと意味の違いがわかります。

4 形容詞

-c で終わる名詞か形容詞

スペイン語の辞書に載っているような単語で -c で終わる名詞か形容詞はありますか。複数形にするときに -cs になるのか、-ques になるのかということなのですが。

私の資料によると次のような名詞があります。形容詞はありません。coñac, frac, bistec, zinc, bloc。辞書で確かめると、複数形は-cs いうときと-ques いうときがあるようです。

形容詞の前置と後置

形容詞は名詞に対して前置も後置もありますが、何かニュアンスが変わりますか？

gran と grande の違いは？

grande は単数の名詞の前に置かれると gran となります。そのときは、偉大さや重要さ、量などを示します。一方、grande は名詞の後や形容詞が名詞から離れて使われるときの形です。そのときは具体的な大きさを表すことが多いのです。これはまた複数 grandes にもなります。このように、gran と grande の違いは基本的に名詞に対する位置によるものです。そして名詞の前になると意味が抽象的になり、名詞のあとになると具体的な大きさを示します。grandes ciudades では名詞の前にあるので、具体的な大きさよりも、人口や重要性なども含めた「大都市」という意味になります。単数ならば gran ciudad です。一方、una ciudad grande 「大きな都市」というと第一に面積がイメージされます。

2つの形容詞と y

fiestas populares famosas は populares と famosas の間に y は入らないのですか？

形容詞が連続するとき、間に y がある例を探してみました。たとえば、el pelo largo y negro「長くて黒い髪」、un invierno largo y severo「長くて厳しい冬」、los

intereses políticos y económicos「政治的・経済的利害」。このように二つの形容詞が意味の上で同じ資格があるときには y が使われます。一方, fiestas populares famosas はまず, fiestas populares「人気のある祭り」があり, それ全体を famosas「有名である」が修飾し, 全体で「有名な人気のある祭り」という意味になります。もし, 同じ資格で「人気があって, (しかも) 有名な祭り」という意味ならば fiestas populares y famosas となるでしょう。

複数の形容詞の順番

形容詞がいくつか続くとき, 順番は決まっているのですか？

形容詞がいくつか続くとき名詞の後に続くことが多いのですが, そのときの原則として, 「制限用法→説明用法」の順と「分類形容詞→品質形容詞」の順が挙げられます。las casas blancas hermosas「美しい白い家」、los jugadores españoles veteranos「ベテランのスペインのプレーヤーたち」

主語を修飾する形容詞

Bueno, sentaos y hablad tranquilos の中で tranquilos.「さあ坐ってゆっくり話してください」は形容詞ですか。副詞ですか？形容詞ならばなぜ直接に動詞を修飾できるのですか？副詞なら複数ではなく複数にならないはずですが。

これは形容詞が主語を修飾し, その結果副詞的な意味になったケースです。形容詞なので主語の性と数に一致します。副詞ならば語形変化しません。

5 副詞

demasiado

demasiado という形容詞はなぜ女性形でなく男性形なのですか？ **tranquila** が女性形なので（**ciudad** が女性名詞なので）女性名詞になってしまう気がするのですが…

demasiado は形容詞と副詞の用法があります。ここでは副詞で(cf. 英語の **too**), 形容詞 **tranquila** を修飾します。副詞は性と数の変化がありません。副詞は基本的に動詞や形容詞にかかるので、（名詞にかかる）形容詞のように名詞と性・数の一致による変化をしません。

junto, juntos

文中の junto が形容詞なのか副詞なのか、はどうやって判別したら良いのですか？文章の意味を考えてみても分からないのですが、見分ける方法がありますか？

形容詞の用法は名詞を直接修飾するか (**cielo azul**), **ser** や **estar** など主語を叙述するか (**Estoy cansado**), または主語を修飾して主語と性と数と合わせます。**Cantamos juntos**.「私たちは一緒に歌います」。この場合は **juntos** は **nosotros** という主語に一致して、主語を修飾しています。一方, **Junto con el regalo, enviamos una carta**.「私たちは贈り物と一緒に手紙を送った」の **junto** は主語(**nosotros**)を叙述(説明)していません。むしろ動詞 **enviamos** にかかります。英語ならば形容詞も副詞も変化しないので、両者を区別しなくてもどうにかかりますが、スペイン語は形容詞ならばそれがかかる名詞に一致させなければならないので、はっきりと区別しなければなりません。

「時」と「場所」を示す副詞（句）

hoy や **ayer** はテキストの「練習」で、文頭、文末、文中、と色々な所に出て来ますが、どこに入れても良いのですか？

「時」と「場所」を示す副詞（句）の位置はかなり自由です。

時を示す副詞句

Voy a Valencia un par de veces al año の un par de veces al año は voy の目的語ですか？

voy は ir という自動詞の活用形なので目的語はありません。un par de veces al año は名詞句ですが、この文の中では副詞のように働いています。頻度や時を示す名詞句はそのままの形で副詞になることがあります。

6 機能語

6. 1 冠詞と代名詞

総称を示す定冠詞

*日本語で「猫が好きだ」というときは猫は単数形のままですが、英語やスペイン語では *cats, gatos* のように必ず複数形になりますよね？こういう違いはどういうところから生まれるのでしょうか？

→日本語では単数・複数の区別を普通しないので、わざわざ「猫たち」というような表現を使うことがないのでしょう。一方、英語では確かに *cat* のような可算名詞の場合は *I like cats.* というのが普通だと思います。これは *the cat* のように「総称」*generic* で使われる定冠詞は文語体の特徴だからです。例：**The cat is one of the most poorly understood of all animals.** 一方、口語で複数形 *cats* が使われるのは具体的な複数の猫のイメージを喚起するからだと思います。つまり、話し言葉では抽象的な概念よりも具体的な事物で示す方を好むわけです。

スペイン語でも口語で可算名詞の場合、具体性を示す複数形が好まれますが、定冠詞をつけるのが普通です。いま Google で”*Me gustan gatos*”と”*Me gustan los gatos*”を検索してみると圧倒的に後者の方が多いのです。（もちろん、この場合「特定の猫」を指していることもあります。が、「総称」としての「猫」を指しているケースも多く見られます。）一般にスペイン語では「総称」を示すときには定冠詞をつけます。次の英語との比較例をごらんください。 *Los belgas beben mucha cerveza.* / *Belgians (in general) drink a lot of beer.* (Butt and Benjamin: A New reference grammar of modern Spanish)

定冠詞と所有形容詞

Escondí la cabeza entre los brazos. 「私は腕の中に頭を隠しました」となっていますが、**mi cabeza** とならないのですか？

スペイン語では身体の一部、身体につける物は一般に定冠詞がつき、所有形容詞はつきません。「…の」というときは、間接目的語の代名詞や再帰代名詞を使います。

tomar un café

Tomamos un café の un はなくてもよいですか？

英語の take coffee, take a coffee と同じように、スペイン語でも tomar café と tomar un café のどちらも言い方も可能です。tomar café だと単に「コーヒーを飲む」という意味ですが、tomar un café のほうが具体的なコーヒーカップなどのイメージがあります。ここでは二人がコーヒーを飲むので、un café というのはおかしい感じがしますが、それぞれの人が飲むコーヒーが 1 杯ということで、「配分」された単数が使われます。

無冠詞

cuando era niño...の niño は名詞ではないだろうか。名詞だったら、なぜ冠詞を使わないのだろうか？

名詞に必ず冠詞がつくとは限りません。ここでは ser niño がひとまとまりで、1 つの動詞(述語)のような役割を果たしているからです。つまり、とくに niño を名詞として取り出して、それがどのような niño なのかを問題にしているわけではないからです。たとえば ser 動詞の後に身分・職業・国籍などを示す名詞が来ると、その名詞には冠詞がないのがふつうです。

tú と usted

tú と usted はどのように使い分けたらよいのでしょうか？

tú と vosotros は、家族や友人など普通の話し方をする相手に使います。usted と ustedes は、目上の人や初対面の人など丁寧な話し方をする相手に使います。初対面でも若い人之間などでは、tú と vosotros が使われます。ラテンアメリカでは vosotros が使われず、そのかわりに ustedes になります。tú はラテンアメリカでも使われます。

代名詞の重複：間接目的語

La madre le cuenta un cuento al niño の文の構造は？

La madre le cuenta un cuento al niño の le と al niño は同じ人を指します。このように代名詞が他の名詞を(重複して)指すことがあり、とくに間接目的語の場合によく起こります。

代名詞の重複：直接目的語

Le invito a usted a comer. どうして le と a usted と「あなた」を指す語が二箇所に使われているのですか？どちらか片方では文を成しませんか？

これは「代名詞の重複構文」と呼ばれるもので、le と usted は同じ人を指します。このように代名詞が重複して使われるのは間接目的語に多いのですが、この文のように直接目的語が「人」の場合にも起こることがあります。

冠詞と目的語の代名詞の形が似ている

冠詞と目的語の代名詞の形が似ているのはなぜですか？

どちらもラテン語の(「あれ、あの」という意味の)指示詞に由来します。同じ起源を持つので、形がとても似ていたり、同じであったりします。

conmigo, contigo

どうして con mí と con ti だけが合体した形(conmigo, contigo)があるのですか？

たしかに、他の人称では con nosotros, con vosotros, con él... というように合体していません。実は古いスペイン語では 1・2 人称複数でも conusco や convusco というような合体した形がありました。これらは俗ラテン語の noscum や voscum (古典ラテン語ならば nobiscum, vobiscum : このように cum は名詞の後にくっついていました) に由来します。続けて書かれているので 1 語のように感じられて、改めて前置詞の con が前につき, conusco, convusco となりました。これらと平行した形が現代スペイン語の conmigo と contigo です。conmigo と contigo は中世スペイン語から連綿と現代スペイン語まで続いて使われましたが, conusco, convusco の方は, con nosotros, con vosotros という形となって、一般の「con + 名詞」と同じ形態をとるようになりました。この理由として conmigo, contigo の頻度が高かったことと, nosotros, vosotros (<nos + otros, vos + otros) が多用されるようになったことが挙げられると思います。

代名詞の連続

¿Puedes prestarme el diccionario? の el diccionario を人称代名詞して言い換

えると ¿Puedes prestarmelo? または、 ¿Me lo puedes prestar? となりますが、 ¿Lo puedes prestarme? とか ¿Me puedes prestarlo? というのは OK なのでしょう。

¿Lo puedes prestarme? や ¿Me puedes prestarlo? は無理です。どちらも prestar にかかわる代名詞なので一緒にしなければなりません。一方、Nos ha visto hacerlo. や Os dejaron llamarla. ならば、ver - nos, hacer -lo, dejar -os llamar - la というように、それぞれの動詞にかかわるので、OK です。

6. 2 疑問詞と関係詞

que と quien

関係代名詞で先行詞が人の場合、que と quien のどちらを使えばよいのですか？

一般に que が使われます。quien は少し硬くてフォーマルな文になります。

関係副詞の cuando

関係副詞の cuando はないんですか？

関係副詞の cuando は次のような場合に使われることがあります。Nunca olvidaré el día cuando nació Pedro. 「私はペドロが生まれた日をけっして忘れないだろう」。しかし、この場合 en que や que を用いる方が普通です。

目的語の関係代名詞の省略

英語では目的語の関係代名詞は that は省略されるがスペイン語でも省略可能ですか？

スペイン語の関係詞は厳密で、省略できません。

donde と en que

英語では関係副詞 where は in which に書き換えられるが、スペイン語でも同様ですか？

lugar en que vivo 「私が住んでいる場所」のように donde の代わりに en que を使うこともあります。

関係詞とアクセント記号

関係詞と疑問詞は形が似ていますが、関係詞にはアクセント記号はつけないのですか？

つけません。また読むときも強勢をかけないで次の単語につなげて読みます。

la última vez que asistí

Yo disfruté mucho la última vez que asistí a la Feria の que は関係代名詞ですか？

関係代名詞です。これは asistí a la Feria la última vez という文中の副詞句 la última vez を先行詞にした関係文です。このように文の中では副詞として働いていますが形は名詞句なので、関係代名詞は que を使います。

同格の関係節

Escribo hoy en este diario, antes de comenzar las vacaciones de verano, época que que quiero aprovechar para viajar. 「夏の休暇、旅行に利用とおもう時期がはじまる前に、この日記に書こうと思う」の época は必要なのでしょうか。関係代名詞の que でそのままつなげてはいけないのでしょうか？

época は「時期」という意味で、verano を同格で説明し、それを関係代名詞で限定しています。同格になる名詞(ここでは época)を挟まないで、そのまま説明用法の関係代名詞(コンマの後の que)を使うこともできます。

6. 3 所有語と指示語

tú と tu

tú と tu の違いは？

→tu は所有形容詞で、tú は主語代名詞です。このように同じ形になるのでアクセント記号で区別します。一方、yo と mi はまったく違う形なのでアクセント記号をつけません。しかし、前置詞の後の代名詞 mí は所有形容詞と同じ形になるので、アクセント記号をつけて区別します。すこしややこしいようですが、実はとても合理的なのです。

所有語の意味

たとえば *su foto* は「彼女の(が所有している)写真」の他に「彼女の(が写っている)写真」の意味がありますか。

どちらの意味にもなります。このように所有語は必ずしも「所有」の意味だけでなく、「関係」の意味にもなります。

指示詞中性の複数

中性の *esto, eso, aquello* の複数形はありますか？

ありません。中性は単数形だけです。複数形が必要になると、男性の複数形を使います。¿*Qué son estos?*「これらは何ですか？」

6. 4 前置詞

a: *contestar (a) una carta*

辞書で「手紙の返事を書く」は「*contestar (a) una carta*」と出ていました。このとき *una carta* を代名詞にするとどのようになりますか？

「手紙に返事を書く」に前置詞 *a* を使うとき(*contestar a una carta*), *contestar* は自動詞として働きます。そのとき *a una carta* は間接目的語ではなく一般の前置詞句になるので代名詞 *le* は使いません。*contestar una carta* のように他動詞の場合は *contestarla* というように直接目的語の *la* を使います。*Le contesté* とすると、*Le* が「人」とであると解釈されます。確かに日本語の「を」がスペイン語の直接目的語にあたり、「に」が間接目的語にあたることが多いのですが、そうとは限らないこともあるので注意が必要です。

de 「説明」

¡*Esto de la recesión económica es terrible!* 「この不景気はひどい！」とありますが、どうして *de* が必要となるのですか？ ¡*Esto la recesión económica es terrible!* ではいけないのですか？

→*Esto* は指示代名詞の中性形なので、次の女性の名詞句 *la recesión* を直接修飾できません。*Esto* と *la recesión* を同格にしてつなぐとしたら、*Esto, la recesión económica, es...* のように中にコンマを入れます。話し言葉では教科書のように「説明」の *de* を用いて、*esto de..., eso de..., aquello de...* という

形がよく使われます。

de: vacaciones de verano

vacaciones de verano と言いますが英語では **summer vacation** と言い **vacation of summer** とはあまり言いませんが **de** を使わないような言い方はありますか？

スペイン語では基本的に名詞＋名詞の構造はとりません。そこで「夏休み」(verano vacación)というのではなく、「夏の休み」(vacación de verano)という言い方になります。

de: terminar de estudiar

¿Cuándo terminarás de estudiar? 「いつ君は勉強を終えるの？」の **terminar** の後の **de** は何の意味があるのですか？

terminar は他動詞でたとえば *Terminaré este trabajo dentro de poco.* 「私はこの仕事をもうすぐ終えるつもりだ」のように使えますが、不定詞が続くときは **terminar de** ＋不定詞で「…をすることを終える」という意味になります。

en: hablar en español と hablar español

hablar en español と **hablar español** の違いは？

たしかに **hablar** という動詞には(1) **hablar en español** という使い方と(2) **hablar español** という使い方があります。(1) **hablar en español** は日本語にすると「スペイン語で話す」という意味に対応し、とくに内容を問題にしないで、とにかく何かのことについてスペイン語を使って話すことを意味します。一方、(2) **hablar español** は日本語にすると「スペイン語を話す」という意味に対応し、「スペイン語」が直接の目的語になります。(1) ではとくに話す内容を問題にしていませんが、(2) では話すことがスペイン語という言語であることをはっきりと意識しています。どちらも同じような内容を行っているために違いがわかりにくいかもしれませんが、(1)と(2)の違いは(1)に前置詞の **en** があることです。これによって(1)の表現が間接的になり、「スペイン語」**español** が背後に退きます。一方(2)は前置詞がなく、「スペイン語」**español** がそのまま直接目的語となりダイレクトに前面に出てきます。このように言語の形式は意味と密接に関わり合っていますから、形や構造を意識してみてください。

en と a

(1)「スペインはヨーロッパの南にある」と言うとき *España esta en el sur de Europa.* というのに、(2)「バレンシアはイベリア半島の東にある」というところでは *Valencia está al este de la Península Ibérica.* となっていて、**en** と **a** は使い分けているんですか？

その通り **en** と **a** を使い分けています。(1) ... *en el sur de Europa* はスペインを *Europa* 全体の中に位置づけています。(2) では話し手が *Madrid* にいて、その東方に向かった位置に *Valencia* がある、という意味です。

de: un estudiante del español

un estudiante español は「スペイン語を勉強する学生」になるのですか？それとも「スペイン人の学生」となるのですか？どのようにして書き分けたら良いのでしょうか？

un estudiante español は「スペイン人の学生」です。「スペイン語の(を勉強する)学生」ならば **un estudiante del español** となります。

por と para

por と **para** は使い方が似た感じがするのですが、実際どのように使い分ければ良いのですか？

とても似ています。辞書などでは、**por** は行為の出発点となる(内在的な)「動機・理由」を示し、**para** は「目的、目標、利益」など行為の外にある「到達点」を示すと説明され、次のような例文が挙げられています。*Voy a España por hablar con el Sr.Lopez.*「私はロペス氏に話ができればと思ってスペインへ行きます」(動機)。*Voy a Espana para aprender el idioma.*「私はことばを学ぶためにスペインへ行くつもりだ」(目的)。

sobre

hablar de esta fiesta「祭りについて話す」の **de** は **sobre** とどう違うのでしょうか？

de も **sobre** も話題を示して「…について」の意味があります。**de** よりも **sobre** のほうが、より話題を明確にします。さらに明確にするには **acerca de**, **respecto a** のような専用の前置詞句が使われます。逆に **de** は、他にもとても多くの用法があるので軽い感じがします。

動詞＋前置詞

例えば *decidir* と *empezar* は英語では共に、*decide to do*, *begin to do* というように同様の構文をとります。ですがスペイン語では、前者は直接不定詞が来て、後者は前置詞 *a* の後に不定詞が来るというようになぜ違いが生まれるのでしょうか。これは動詞の意味、ニュアンスの違いや、前置詞 *a* に何か特別な意味が与えられることによるものなのでしょうか。

竹村先生からパスが届きましたので、私も参加します。

動詞の目的語を示すのに前置詞がつくつかつかないか、前置詞がつくときはどの前置詞を用いるかは、言語によって異なります。たとえば、「町に近づく」は英語では *approach the city* のように直接目的語を使いますが、スペイン語では *acercarse a la ciudad* のように前置詞 *a* を使います。(*acercarse* は再帰代名詞で 2 学期に学習します。)そして、フランス語では *s'approcher de la cité* のように前置詞 *de* を使います。

このような違いがなぜ生まれるのでしょうか。実は、どのような前置詞が使われるのかは、1 言語の中でも必ずしも決まっていなかったことがあります。たとえば *disfrutar con / de / en la naturaleza* 「自然を楽しむ」のように少なくとも 3 つの前置詞が可能です。その中でとくに多いのが *de* です。このようにスペイン語は(他の言語も同様だと思いますが)、さまざまな可能性の中から一般によく使われているものが選択されて一定の用法になっていく、という過程を積んできました。しかし、これも、また変化する可能性があります。

それでは、一般にどのような形式が選択されていくのでしょうか。私は、言語体系全体の概念的な枠組みが統一されるような形式が選択されるのではないかと、思っています。そうでないと、ケースバイケースで異なった形式になってしまい、バラバラの形式を個々別々に覚えなければならなくなってしまいます。たとえば、「始める」という意味を共通にもつ *empezar*, *comenzar*, *iniciar* などは前置詞 *a* をとります。たとえば、*Empezó a pelear* 「彼はけんかを始めた」 *Canal 1 comenzó a transmitir el programa* 「1チャンネルは番組の放送を始めた」などです。これらの動詞で前置詞 *a* をとるのは「…することに向けて動作を始める」という方向性を示しているからだと考えられます。

逆に、「終わる」という意味を共通にもつ *acabar*, *cesar*, *finalizar*, *terminar* などは前置詞 *de* を使います。*Acabaron de trabajar* 「彼らは仕事を終えた」(「仕事をしたばかりだ」という意味もあります) *Finalizaron de componer la nueva canción* 「彼らは新しい曲を作曲し終えた」など。これらの動詞で前置詞 *de* をとるのは「…するという動作から離れる」という離脱性を示しているからだと考えられます。

このように、ふつう同じ概念をもつ動詞は同じ前置詞を選択するのが自然です。

さて、ここで取りあげた動詞はどれも前置詞なしで使うことがあります。**Empezó la pelea**。「彼はけんかを始めた」**Canal 1 comenzó el programa**。「1チャンネルは番組の放送を始めた」**Acabaron el trabajo**。「彼らは仕事を終えた」**Finalizaron la nueva canción**。「彼らは新しい曲(の作曲)を終えた」。これらは、ぜんぶ動詞のあとが前置詞＋動詞ではなく、名詞になっています。この理由は、ダイレクトに名詞を繋げると、前置詞 **a** の「…することに向けて」という意味や、前置詞 **de** の「…することから離れて」という意味が必要でなくなるからでしょう。「…すること」というのは不定詞があるときの意味だからです。

このように同じ動詞なのに、なぜ、動詞を目的語にするときは前置詞を使い、名詞を目的語にするときは、そのままつなげるのでしょうか。このような文の目的語には、実は動詞が含まれている、という学説があります。たとえば、前出の例で **la pelea**「けんか」は **hacer la pelea**「けんかをすること」、**el programa**「番組」は「番組を放送すること」、といった感じです。これらの動詞は話す人も聞く人も了解している動詞ですが、そうでないときは、ちょっとわかりにくいことがあります。**Finalizaron la nueva canción**。「彼らは新しい曲を終えた」のとき、彼らが終えたことは「新曲を作曲したこと」なのか、「新曲を演奏したこと」なのか、または他の動作なのか、文脈や状況がないとわかりません。このように考えると、「始める」「終える」という意味の「動詞＋名詞」の構造の中に、実は「動詞＋前置詞＋動詞＋名詞」が潜在的にあることになります。そうでないと、「動詞＋名詞」の構造が無理になります。たとえば、**Juan empezó la pluma**。「フアンはペンをはじめた」ではふつうは(話す人と聞く人の間に共通の理解がなければ)何のことだかわかりません。「新しいペン」**la nueva pluma** ならばわかってもらえるかも知れません。そして **Juan empezó a usar la nueva pluma**。「フアンは新しいペンを使い始めた」ならば完全に理解してもらえます。これは言語が社会的な関係と適切な配慮によって成立する伝達のシステムであることを示しています。

(MaríaHernanz Carbó と Emilio Náñez を参考にしました。2010/7/15 上田)

6. 5 接続詞

6. 6 数詞

3桁の数字

y はどの位置に入りますか。

31以上の10の位と1の位の間です。これは45.335(cuarenta y cinco mil trescientos treinta y cinco)のように桁数が多くなっても mil の前で同じように y が入ります。millón の前でも同じです。たとえば199のとき英語だと one hundred and ninety nine ですが、スペイン語だと ciento noventa y nueve となり、and と y という「と」の意味の言葉を入れる位置が違ってきます。

年号

スペイン語で年号を言うときは英語のように 1919 ナインティーン, ナインティーンのように言うのですか？

いいえ、たとえば1919は mil novecientos diecinueve と言います。

el año 1492

数は名詞の前につけているのに、年をいうときはたとえば、el año 1492 のように後ろについているのはなぜですか？

数が名詞の前にあるときは、それが数形容詞として「…個の」という意味のときです。たとえば、200 (doscientas) casas「200軒の家」。一方 el año 1492 は el año と 1492 が同格の関係で、「1492という年」という意味になります。ここでは「年」が1492個あるわけではないので後ろにつけています。一方、「5個の年」つまり、「5年」という意味ならば、やはり前につけて cinco años となります。また名詞が複数になることにも注意しましょう。

6. 7 不定語と否定語

nunca と jamás

nunca と jamás の意味の違いは？

どちらも「決して…ない」という意味でほとんど同義ですが, *jamás* のほうが意味が強いようです。*nunca* はラテン語の *ne* (否定) + *unquam*「かつて一度」に由来して「一度も…ない」という意味です。*jamás* はラテン語の *iam*「もう」(cf. スペイン語の *ya*) + *magis*「さらに」(cf. スペイン語の *más*)に由来します。2 つをつなげて *nunca jamás* と言うと, とても否定の意味が強くなります。

二重否定

質問の答えとかで No, no...というふうに否定語を2つ重ねて使っていますが, それなら二重否定の文はどうやって作るのでしょうか。

二重否定とは2つの否定語が同一の語を否定することです。結果的に肯定になります。たとえば, *I can never do anything without making some mistakes.*は「私は何か間違いをしないでは何もできない」つまり「私は何をしても必ず間違いをする」という意味になります。スペイン語では *No puedo hacer nada sin cometer algunos errores.* となりまる。英語の *anything* はふつうスペイン語の *algo* に対応しますが, 文が *no* で否定されると, 動詞の後の *algo* は *nada* になります。

7 文と節

無主語文

hacer calor, tener calor の使い方の違いについて。**tener hambre** などのように、**tener** ならば「持つ」の意味から何となくわかるのですが、何故 **hacer** の形も使われるのですか？また、**estoy frío** などの言い方はないのですか？

hacer は一般に次にくる名詞の動作を「する」という意味があります。たとえば **Hago ejercicio**. 私は運動をする。また「作る」という意味もあります。そこで **hace calor** が全体で「暑くなる」という動詞で使われるのです。そしてこの場合は主語はなく、「そうした現象がある」つまり「暑い」という意味になります。

hace calor や **tengo calor** の **calor** は「暑さ」という意味の名詞です。また **hace frío, tener frío** の **frío** は形容詞のように見えますが、やはり「寒さ」という意味の名詞です。そこで、**estoy frío** のように **frío** を形容詞として使うと「(体が)冷えている」という意味になります。ちょうど **La cerveza está fría**. 「ビールが冷えています」と同じような感じですが。また比喩的に「冷静である」という意味にもなります。

GUSTAR のタイプ

gustar, interesar 以外にどんな動詞がこれに相当しますか？単語を見て見分ける方法はありますか？

他に、**agradar** (自動詞)「気に入る、喜ばしい」、**encantar** (他動詞)「魅了する」、**fastidiar** (他)「うんざりさせる」などの「感情」を示す動詞や、**convenir, venir** (どちらも自動詞で「都合がよい」という意味)があります。
¿Mañana te viene bien? 「明日の都合はどう？」

GUSTAR は自動詞

英語では間接目的語は他動詞と用いられるが、スペイン語では **gustar** のように自動詞と用いるのはなぜですか？

英語で他動詞と用いられるのは間接目的語ではなく、直接目的語です。スペイン語の **gustar** は古いスペイン語(中世スペイン語)では、英語の **like** のように他動詞として用いられていましたが、次第にその目的語が主語の

ような役目を果たすようになり、一方、従来の主語が間接目的語に変わりました。gustar の主語が動詞のふつうは後ろにあるのは、昔は直接目的語であった名残りだと考えられます。

A mí... me の構文

A mí el curso de español no me deja tiempo para nada.「私にはスペイン語のコースがあってもする時間がない」の A mí... me の構文を説明してください。

この文は El curso de español no me deja tiempo para nada. という文の中にある me を a mí という形で文頭に取り出したものです。このように動詞に密着した代名詞は a + 代名詞の形になると動詞から離すことができ、この場合のように話題として取り出すことができます。「私と言えば、…」という感じです。A mí me gusta...「私が好きなのは…」も同じ構造です。

動詞＋主語という語順

En Madrid viven cuatro millones de habitantes.という文では動詞の後にきていますが、このようなことが起きるのはどのようなときですか？どうして動詞の後にくるのですか？

この文のはじめに En Madrid という副詞句があります。これがこれまで話題になっている部分（古い情報）です。そして、主語の cuatro millones de habitantes は新しく導入された情報です。このように、古い情報が先で新しい情報が後になるのが文の自然な流れです。（いきなり新しい情報からはじまると聞く人はとまどってしまうからです。）

疑問文の主語の位置

英語と違って疑問文でも順を変えたり、原形にしたり、ということはないのですか？（否定文も）

主語が書かれてあれば、動詞＋主語となります。¿Está usted cansado? (あなたは疲れていますか)。しかし、¿Usted está cansado? (あなたは疲れていますか)ということもできます。この場合は Usted が話題として強調されています。さらに疑問詞があればその前につけます。¿Dónde está Valencia? この場合(疑問詞があるとき)は主語を前におくと変です。×¿Dónde Valencia está?

*一つの名詞にいくつかの形容詞を修飾させる場合には、その順番に決まりがあり

ますか？

→文法書には、名詞の後に「分類形容詞(部類を示す) + 品質形容詞(性質・状態を示す)」という順番が普通だと記述されています。たとえば、*una casa andaluza maravillosa*「すばらしいアンダルシアの家」。一方、*la casa ideal pequeña*「小さな理想的な家」のように品質形容詞が並ぶときは、順番がとくに決まっていなようです。(長い形容詞が後に来る傾向があります。)私は、このような機械的な分類よりも、話者の伝えようとする内容に平行した、名詞と形容詞の結合性・密着度を重視すべきだと思います。たとえば、*la casa ideal pequeña*「小さな理想的な家」というときは、はじめに *una casa ideal*「理想的な家」がイメージされ、それが「小さいのだ」ということを言いたいときは、*la casa ideal pequeña* となります。逆に、*una casa pequeña*「小さな家」が先にイメージされ、それが理想的だということならば、*la casa pequeña ideal* となります。このように話し手が伝えたい意図によって語順も異なると思います。

自由な語順？

スペイン語の語順はまったく自由ですか？

平叙文ならば基本的に主語 + 動詞、疑問文ならば、動詞 + 主語になりますが、平叙文でも主語が後ろになることもあります。新しい情報として提示するときは、主語が後ろになります。

疑問詞疑問文の語順

疑問詞を使った疑問文の語順は？

疑問詞 + 動詞 + 主語が基本的な語順です。たとえば *¿Qué quiere hacer José?* (ホセは何をしたいのですか?) 主語がないときは次のようになります。 *¿Qué quieres hacer?* (君は何がしたいの?)

GUSTAR の主語は後置

gustar はなぜ後置するのですか？

中世スペイン語の *gustar* は意味は「…を味わう」という他動詞でした。それが、16～17世紀に *gustar de...*「…を味わう」という形で前置詞をともなって自動詞としても使うようになり、さらに18世紀に「…」の部分の主語になって使われるようになり、「…が好きだ」という意味に変わりました。このように、*gustar* の主語が動詞の後ろにあるのは、本来目的語の位置にあったものが主語として働くようになったためだと思います。また、*Esta música me gusta mucho* のように前に出すこともできます。そのと

きは Esta música を話題としてわざわざ取り上げています。

関係節の中の主語の位置

Este edificio antiguo donde trabaja Maria es del siglo XVI. という文なのですが、donde Maria trabaja とは書けませんか？

文法書には記述がないので、この機会に手元の資料（演劇作品から50万語の資料を作りました）を調べました。donde(...)節の主語は次のような文で動詞の後にあります。(...) el sitio donde está el señor Santos se acercan a la mesa donde está Mercedes これらは「存在」を示す場合です。次も同様に「存在」に近いものです。

(...) la parte alta donde finaliza la escalera de mármol (...). / (...) la puerta por donde salió su marido. / (...) esta tienda, donde se encuentra todo lo que se puede pedir.

また、次のように「不在」の場合もあります。Lo más triste de las casas donde falta el hombre es que (...). いずれにしても「存在」や「不在」によって、新しい情報が提示されています。

お尋ねの文も trabaja が「働く」というよりも「働いている」という「存在」に近い意味が感じられると思います。(...) donde María trabaja とすると、María がすでに話題になっている感じです。ここでは新情報として María を登場させたほうが自然です。

一方、(...) hay teatros donde el espectáculo es más amable (...). / Ella es la dueña de esta casa, donde mamá y yo estamos pasando unos días. などのように主語が動詞の前になることもあります。これは「…で母と私は…」というように、説明用法で「母と私」を話題にして新たに初めから文を書き直している感じです。これを Ella es la dueña de esta casa, donde estamos pasando unos días mamá y yo. とすると、新たな登場人物を提示することになり少し変です。

一般に関係文の中の主語は次のように動詞の後に来ることが可能になります。(...) el cuadro que compró usted el otro día. / (...) el dinero que anoche te dio don Jorge. これは、先行詞の cuadro や dinero が話題になっているからで、後におかれた部分(主語)が新情報になります。しかし, Sigue de memoria el pasaje que Adela recita. / (...) es un objeto que Adriana ve por primera vez. などのように主語が動詞の前になるときもあります。この場合は主語の Adela や Adriana がすでに登場していて、話題として設定することができるからです。

よって、「話題」（旧情報）が前、「新情報」（コメント＝話題について述べていること）が後になる，という原則は，関係節の中でも同様だと思います。

「時」の副詞句の強調構文

Sería a eso de las diez cuando llegamos a casa.は Serían の間違いではないですか？

a eso de...でなくても、a...だけでも2つの可能性があります。、次の2つの可能性があるようです。

(1)

Es a las diez cuando hay que apagar las luces.

Es a las dos cuando se puede entrar a degustarlo.

(2)

Son las dos cuando salimos de aquí.

Son las dos cuando por fin me voy a ...

このように、(1)のほうがしっかりとした強調構文で、(2)は少しルーズ(flojo)ですが、やはり使われています。a las ...となったら Es...であり、a なければ Son になることには揺らぎがないと思います。Son a las ...はケアレスミスでしょう。

8 語と語形成

国名の形容詞

国名の形容詞を「～の人」とするときに語尾に何を付ければよいかという規則性がありますか？

一般性のある規則はなく、それぞれの国名に固有の形容詞があります。しかし、形容詞の語尾にはあまりバリエーションがありません。140カ国語ぐらいで調べてみましたが、80カ国以上は男性・女性形が-o/-a という語尾になります。たとえば、mexicano, mexicana. 次に多いのは és - esa です。例：japonés / -esa (30以上)。また、ense, í, ta で終わる形容詞も6～8ぐらい見つかりました。canadiense, iraní, croata. くわしくは「スペイン語学習ガイド」→「語句」→「国名の形容詞」をご覧ください。

dar recuerdos para

dar recuerdos para は英語だと say hello to になると思います。スペイン語では say のように decir は使えないのですか。また前置詞は para で、英語の to にあたる a はなっていないのも気になります。

確かに英語の say hello to にあたりますが、hello に対応する recuerdos は英語の hello のように単独では使えません。そこで decir recuerdos とはならない理由がわかります。say goodbye ならばスペイン語でも decir adiós はよく使われます。Adios が単独でも使えるからです。前置詞については、para だけでなく a もよく使われます。

縮小辞

cosita が辞書に載っていません。

cosa に縮小辞 ita がついたものです。